

《担当者名》 本谷 亮 中野 倫仁 冨家 直明 野田 昌道 金澤 潤一郎 河合 祐子 森 伸幸 今井 常晶 齊藤 恵一
関口 真有

【概要】

本学の臨床心理学の学習は、基盤となる心理科学の学習をふまえて、臨床心理学やその研究法、関連する倫理・法規を学ぶ「講義」と、それを文献研究やロールプレイなどを通して学ぶ「演習」、現場での体験を通して学ぶ「実習」の大きく分けて3種類によって構成され、それらが相互に関連しながら系統的学習がなされる。

臨床心理臨地実習では、それまでの講義・演習などで学習してきた知識・技術をふまえて、保健医療、福祉、教育、産業分野における現場での心理学的支援や応用心理学の実際を体験的に学ぶことを目的とする。そのための多様な学び方を工夫し、各種機関が規定した現場における体験学習や、支援者・当事者との面接、見学・参加活動を行うなど、さまざまなやり方で現場から学ぶ。そして、その中で、心理学と現場での活動を結びつけるとともに、社会における基本的な態度や姿勢を身につける。

【学修目標】

各種機関の機能を理解する。

各種機関の職域、および業務内容を理解する。

実習機関で用いられるアセスメント技法、および援助技法を理解する。

対象者を理解し、援助する場合の基本的態度、および姿勢を学ぶ。

心理臨床の現場を体験することにより、将来の見通しを得る。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	ガイダンス	実習の目的、内容、進め方の説明を受け、実習を通して身につけるべき態度、姿勢、知識、技能について学ぶ。 ・実習要綱の読み合わせ ・実習報告書の紹介	本谷 亮 関口 真有
4～6	倫理・実習の心構え	心理臨床における倫理、実習の基本的心構えについて学ぶ。 ・準備の進め方 ・誓約書	河合 祐子
7～9	保健医療領域の実際 (病院：精神科)	病院（精神科）における心理士の役割と実際について学ぶ。	本谷 亮 関口 真有
10～12	保健医療領域の実際 (病院：発達関係)	病院（発達関係）における心理士の役割と実際について学ぶ。	金澤潤一郎
13～15	福祉領域の実際	発達相談施設における心理士の役割と実際について学ぶ。	今井 常晶
16～18	教育領域の実際	学校現場における心理士の役割と実際について学ぶ。	森 伸幸
19～21	産業領域の実際	産業現場における心理士の役割と実際について学ぶ。	本谷 亮
22～24	実習機関の特徴	心理学的支援や心理学の応用が行われる施設・機関の社会的役割と具体的な機能を学ぶ。	本谷 亮 関口 真有 森 伸幸 齊藤 恵一 実習担当全教員
25～27	実習先発表 実習事前準備 (オリエンテーション)	実習先を発表するとともに、自身の実習先・実習グループに関して、各教員と事前準備を開始する。	本谷 亮 関口 真有 森 伸幸 齊藤 恵一 実習担当全教員
28～30	実習事前準備 1	各教員と実習の準備を進める。 ・実習で必要な知識を調べる：施設概要、クライアントの特性など ・実習目標の設定：何を学びに行くのか	実習担当全教員
31～33	活動記録の作成 1	実習日誌の特徴、必要性、作成における留意事項について学ぶ。また、適切な実習日誌について、演習を通して学習する。	関口 真有
34～36	活動記録の作成 2	実習日誌における目標設定の仕方、実習内容、気づき、内省・感想、考察の記述の仕方について学ぶ。	関口 真有

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
37～39	マナー、礼儀	実習生として身につけておくべきマナーや礼儀について学ぶ。 ・挨拶の仕方 ・服装 ・敬語 ・電話・手紙のマナー ・社会人としての振る舞い方	本谷 亮 関口 真有
40～42	学習発表会	実習の事前学習で学んだことを発表し、ディスカッションを行う。	本谷 亮 関口 真有 実習担当全教員
43～45	実習事前準備 2	学習レポート、実習先送付資料の作成を進める。	実習担当全教員
46～48	オリエンテーション	本実習が開始するにあたっての基本姿勢、留意事項を確認し、実習に臨む心構えを身につける。	森 伸幸 齊藤 恵一
49～78	本実習	個別実習または連続実習を行う。	実習担当全教員
79～81	実習発表会・実習報告書の準備	実習発表会の準備、および実習報告書の書き方について学ぶ。	本谷 亮 関口 真有
82～84	実習の振り返り 実習発表会打ち合わせ	実習の振り返りを行い、実習課題と成果、今後の課題について確認し、実習発表会の準備、実習報告書の作成を進める。	実習担当全教員
85～87	実習事後学習	学習発表会資料、実習報告書の作成を進める。	実習担当全教員
88～90	実習発表会	実習で実施したこと、学んだことを発表し、ディスカッションを行う。	本谷 亮 関口 真有 実習担当全教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

事前学習、事後学習の出欠

各回に課されるレポート、および学習レポート

出勤簿、実習日誌

本実習評価

実習報告書

以上の5種類を総合して評価する。

【教科書】

実習要綱

【参考書】

適宜、提示する。

【備考】

実習要綱において詳細を指示する。

【学修の準備】

- ・ほぼ毎回、レポート課題が出され、講義された内容や自分で調べてくることをレポートにまとめる（1～2時間）。
- ・実習に関して調べることが多く、図書やインターネットを利用しての自主的学習が求められる（2～3時間）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- 1．心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している（DP 1）
 - 2．社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している（DP 2）
 - 3．社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している（DP 3）
- 上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師：本谷 亮、富家 直明、野田 昌道、金澤 潤一郎、河合 祐子、森 伸幸、今井 常晶、齊藤 恵一、関口 真有
医師：中野倫仁

【実務経験を活かした教育内容】

専門職としての実務経験を活かし、実践的な教育を行う。